

第1章 総則

第1節 目的

この計画は、当地区にかかる防災に関し計画化を進めることで、区民の防災意識の向上と安心安全を確保するための事項を定め、万全を期することを目的とする。

- 1 当地区にかかる防災に関し、地区役員等の処理すべき事務並びに業務の大綱を定め、区民の安心安全を確保するための計画
- 2 防災施設や防災資機材等の新設と調達、地区が実施する各種訓練等の計画
- 3 その他必要な事項

第2節 計画の修正と周知徹底

この計画は、審議会において毎年検討を加え、必要があるときはこれを修正することとする。また、緊急を要する場合は、ただちに修正する。

なお、この計画は、簡易版を作成し全戸配布により区民への周知をはかるほか、各種訓練等によって災害時における防災意識や対応の習熟に努めるとともに、計画の修正を行った場合は、回覧板等により周知をはかる。

第3節 担当する業務の大綱

第1 当地区は、概ね次の事務または業務を処理する。

- ① 地区の防災に関する会議
- ② 防災に関し地区が実施する各種訓練
- ③ 災害等における京丹後市との連絡調整
- ④ 地区避難所開設のための気象（災害）情報の入手
- ⑤ 地区避難所の開設と運営
- ⑥ 地区内における被害調査の実施
- ⑦ 地区災害対策要員（地区役員）の調整
- ⑧ 京丹後市並びに京丹後警察署等の行政機関との情報連絡調整
- ⑨ ライフライン関係機関（電気、ガス、電話）との情報連絡調整

第4節 当地区の現状

第1 位置・地勢

当地区は、京丹後市の南部京丹後市大宮町の中央西側に位置する（東経 135 度 9 分、北緯 35 度 58 分）、面積 3.28 km²、人口 2,254 人、964 世帯（令和 2 年 3 月 31 日現在）の集落です。

地区中心部には、大野神社を祀る城山公園や口大野地区公民館や口大野区事務所があり、これらを囲む南北と東南方向に住宅を長く連ね駅前の府道や市道の両側に、旅館や小売商店のほか飲食店などを連ねた市街地を形成しています。

地区内には、京丹後市の主要幹線である国道 312 号線に平行する府道や市道が南北へと走るほか、京都丹後鉄道の京丹後大宮駅が所在し、京丹後市の中心地域や南は与謝野町へと通じています。

地質は全体的に花崗岩質であり、竹野川沿いに開けた耕地一帯は沖積層に属しており、農地は地区中心地から東側となる竹野川沿いと北西側に水田地帯を広げ、西側山岳地帯までの丘陵（なる山）地帯には、昭和 60 年代前半に着手された国営農地開発事業で開拓された豊かな畑地帯を連ねています。



第2 公的施設等

- ・事務所等 口大野区事務所、口大野地区公民館、城址会館
- ・職員体制 区長 1 名、事務職員 1 名、嘱託員 1 名、臨時職員 2 名
- ・面積 口大野地区 3.28 km²（京丹後市大宮町 68.93 km²）
- ・人口 口大野地区 2,254 人（R2.3.31）
- ・世帯数 口大野地区 964 世帯（同上）、高齢化率 28.4%（R2.9 末）
- ・上下水道等 上水道、公共下水道地域（一部共用開始）
- ・学校施設等 （公立）大宮南保育所、大宮第一小学校（徒歩通学）、大宮中学校（徒歩・一部自転車通学圏）
- ・公民館等 口大野地区公民館（公民館長、公民館主事）、口大野図書館ハロウィン（ボランティア組織）
- ・消防防災等 京丹後市消防本部峰山消防署管轄（片道 6 km）、京丹後市消防団大宮第 1 分団第 1 部（CD I 型ポンプ自動車 1 台、小

型動力ポンプ付積載車 1 台)、口大野自主防災会 1 組織

- 公共交通等 京都丹後鉄道京丹後大宮駅、丹海バス路線 4 停留所
- 公共庁舎等 京丹後市役所大宮庁舎、京丹後警察大宮駐在所、大宮郵便局
- 金融機関等 京都銀行 ATM (旧口大野支店)

第5節 当地区の災害記録（大規模災害抜粋）

第1 自然災害

(1) 風水害

- 1443 (嘉吉 3 年) 8 月 丹後地域の大洪水により谷川部落とともに大野郷岡野宮神社流失
- 1872 (明治 5 年) 7 月 8・9 日 地区内竹野川堤防決壊 5・6 ヶ所
- 1885 (明治 18 年) 5 月 18・19 日 地区内竹野川大橋下堤防決壊
- 1972 (昭和 47 年) 9 月 16・17 日 台風 20 号により町内全域に多大な被害。中河原橋上堤防決壊により昭和町内で床上浸水多数発生。

(2) 地震

- 937 (承平 7 年) 4 月 15 日 丹後大地震 同年 11 月に富士山噴火
- 1475 (文明 7 年) 6 月 11 日 丹後大地震
- 1496 (明応 5 年) 5 月 11 日と 8 月 25 日 丹後大地震
- 1660 (万治 3 年) 1 月 4 日 丹後但馬大地震
- 1662 (寛文 2 年) 5 月 1 日 丹後大地震 (死者多数) 京都市内に被害
- 1694 (元禄 7 年) 10 月 26 日 大地震丹後被害多し
- 1774 (安永 3 年) 12 月 11 日 丹後大地震
- 1847 (弘化 4 年) 1 月 12 日 丹後木津地震
- 1925 (大正 14 年) 5 月 23 日 北但大地震 豊岡、城崎、久美浜被害
- 1927 (昭和 2 年) 3 月 7 日 丹後大震災 口大野村役場・小学校・巡査駐在所全焼、郵便局・口大野駅は半壊。死傷者及び建物被害状況 (死者 49 人、ケガ 100 人、全壊 253 棟、半壊 223 棟、全焼 47 棟、半焼 11 棟)

(3) 雪害

- 1963 (昭和 38 年) 1~3 月 丹後地方豪雪 (被害 48 億円)、この年以降、丹後半島における離村が相次ぐ
- 1976 (昭和 51 年) 12~翌年 3 月 丹後地方大雪 (宮津市世屋地域で発生した雪崩により 5 人死亡)

第2 火災

(1) 大火

- 1858（安政5年）3月30日 地区内にて7・8軒類焼
- 1871（明治4年）6月19日 地区内にて15・6軒類焼
- 1971（昭和46年）11月19日 地区内にて9戸全半焼

(2) 住宅火災

（消防組合設立後把握）

- 1987（昭和62年）4月1日 丹後広域消防組合設立
- 1987（昭和62年）5月10日 地区内にて 詳細不明
- 1988（昭和63年）3月5日 地区内にて1戸全焼、1戸類焼
- 1988（昭和63年）8月7日 地区内にて1戸部分焼
- 1989（平成元年）6月16日 地区内にて1戸部分焼
- 1990（平成2年）4月12日 地区内にて1戸全焼、1戸類焼
- 1996（平成8年）12月1日 地区内にて1戸全焼、1戸類焼
- 1997（平成9年）2月6日 地区内にて1戸全焼、2戸類焼
- 1998（平成10年）7月14日 地区内にて1戸部分焼
- 2001（平成13年）2月23日 地区内にて1戸半焼
- 2001（平成13年）8月23日 地区内にて1戸全焼、4戸類焼、
自動車3台焼損
- 2020（令和2年）2月9日 地区内にて1戸全焼

